あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール 情報誌

THE PHOENIX HALL

Salon

Vol.114 2018年5月 新緑号

ホール3F 壁画 ポール・ギアマン作「クインテット」

CONTENTS

01 Prime Interview ── 古部賢一&鈴木大介
03 Phoenix Presents ── サンデー・クラシック・サロン ～若きベートーヴェンの肖像～
Sun Bones Trombone Trio × ピアニスト金田仁美
「三声の可能性」
05 Pick Up
06 Phoenix Spot ── ヴィーンのクララ・ヴィーク 玉川裕子
07 Essay de say ── 初めてのピアノソロリサイタル 小川理子

あいおいニッセイ同和損保

トップ奏者たちによる極上の室内楽
古部賢一さん、鈴木大介さん

オーボエとギターという、ちょっと珍しい組み合わせで演奏活動を続ける古部賢一さんと鈴木大介さん。二人の演奏プログラムは非常に多彩で、クラシック音楽はもちろんのこと、映画音楽やボサノバなどあらゆるジャンルを軽やかに横断し、独自の世界を創りだしています。誰もが知るような有名曲も、ちょっとしたひねりが加えられることで随分と印象が変わります。そうした音楽の可能性や多様性について、難しく考えるのではなく、できるだけ軽やかに実現しようとしているのがこのデュオの特徴ではないでしょうか。インタビューではデュオ結成のいきさつや、選曲の妙など、二人の人柄や音楽的な背景に触れながらデュオならではの魅力についてお聞きしました。

(取材・文:宮地泰史／あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール)

鈴木大介(すずき・だいすけ／ギター)
作曲家の武満徹から「今までに聴いたことがないようなギタリスト」と評されて以後、新しい世代の音楽家として常に注目され続けている。マリア・カナルス国際コンクール第3位、アレッサンドリア市国際ギター・コンクール優勝など数々のコンクールで受賞。斬新なレパートリーと新鮮な解釈によるアルバム制作はいずれも高い評価を受け、「カタロニア讃歌～鳥の歌／禁じられた遊び～」は2005年度芸術祭優秀賞(レコード部門)を受賞。

古部賢一(ふるべ・けんいち／オーボエ)
東京藝術大学在学中に新日本フィル首席オーボエ奏者に就任。柔らかく甘い音色、バロックから現代音楽に至る幅広い様式に対応する柔軟性と優れた音楽性が高い評価を受け、ソリストとして国内外の数多くのオーケストラと共演。日本オーボエ界の第一人者として、国内外の共演者から確かな信頼を寄せられている。第10回出光音楽賞受賞。東京音楽大学、相愛音楽大学非常勤講師、札幌大谷大学芸術学部客員教授。国際オーボエコンクール・東京、日本音楽コンクールなどの審査員もつとめる。大阪府出身。

新しくて耳馴染みのある音楽を

Kenichi Furube
Daisuke Suzuki

ギターとオーボエのデュオは珍しいと思うのですが、二人で始められたいきさつは？

鈴木　古部さんとは昔から知りあいというわけではなかったのですが、1990年代の後半、同じ舞台で良く会うようになったんです。例えば、武満徹さんの特集コンサートなどでご一緒したり、あるホールのシリーズ企画で同時にラインナップされたりと、直接一緒に演奏するわけではないんですが、近くにいるなぁという感じでした。その後、津田ホール（※1）のプロデューサーに声を掛けられ、私のリサイタルのゲストとして古部さんに来ていただいたんです。その時ですね。あれもやれるこれもやれると意気投合しまして、ほぼデュオとしてのリサイタルになったんです。それから少しずつ、他の所でもデュオで呼ばれるようになっていったんです。

古部　よく「一緒にやれたらいいね」と色んなアーティストと言葉を交わすのですが、その場で終わりという事も良くあるんですよね。そういう意味では、このデュオは色んな人からの後押しや、縁があったんだなぁと思います。それと、これも偶然なんですが1999年度の出光音楽賞（※2）を同時に受賞したのも大きかったかもしれません。その時の披露演奏も本来ならソリストとしてコンチェルトを演奏したりするんですが、私たちはデュオで演奏したんですよね。新曲を委嘱して。そうした色々な積み重ねが今を作っているのだと思います。

お二人にとってこのデュオの魅力とは何ですか？

鈴木　皆さんご存じのとおり、オーボエとギターのデュオはあまりないんですが、海外では例があったりします。例えばロマン派の時代に生きたナポレオン・コスト（※3）という作曲家は、オーボエとギターの曲をいくつか書いています。なので、この組み合わせが全くなかったというわけではないんです。ただ、この楽器の組み合わせが抜群に相性がいいかというとそうでもなくて、一般的にはギターだとフルートの方が音量とか音域の関係から組みやすいです。

古部さんのオーボエは、オーケストラのようなダイナミックな演奏から繊細な音まで非常に幅広く、音色も多彩です。そこがとても素晴らしく、オーボエとなると古部さんじゃないと駄目なんじゃないかと思います。私自身、オーボエとギターという楽器の組み合わせではなく、古部さんと、デュオ演奏しているという感覚です。

古部　実を言うと私は、ギターと一緒に演奏したいと昔から思っていたんです。ピアノとのデュオとは違う何かがあると思ってたんですが、周りにクラシック・ギターをちゃんと弾ける人がいなかったんですよね。学生当時は。

その当時、CDで2枚ほど海外のオーボエとギターのデュオ作品を持っていたんですが全然楽しめなくて(笑)。もっと何か面白いことが出来るんじゃないかと思っていたんです。だから鈴木君と初めて合わせてみた時、しっくりきたというか、とても面白いと感じたんですよね。

ギターとオーボエというと、同じクラシック音楽でもかなり違いがあると思うのですが、お互いの音楽性についてどう思いますか？

古部　鈴木君とは、それこそ王道のクラシック音楽以外のところで近しいところがあったんだと思うんです。実は私、東京藝術大学の学生の時はサンバ部に在籍していたんです。浅草サンバカーニバルにも二度ほど出演しています。

藝大のサンバ部は結構凄くて、パーカッションの人がそのままプロ奏者になったり、クラシックの声楽を勉強している人がラテンのプロ歌手になったり、本格的だったんです。クラシック音楽にはない独特のノリや拍感があるんですが、その経験がこのデュオで活かされているというのはありますね。

そもそも私は、音楽のジャンルを越える時に自分の中で大きくスイッチを切り替えなければならないということはありません。クラシック音楽もクラシック以外もむしろ地続きというか同じ感覚なんです。だから、特にクラシック以外の音楽について鈴木君から教わることは多いです。

鈴木　私としては古部さんのオーケストラや室内楽での経験に基づくアンサンブルの基礎や、奏者とのコミュニケーションの仕方などは随分勉強させていただきました。私は若い時に室内楽に呼ばれることが多かったんですが、その時随分苦労したんです。純粋なクラシック音楽畑の人は、小さい頃からアンサンブルの経験があるので自然にできちゃうんですが、ギターは基本的に一人で演奏する楽器で殆どアンサンブルや室内楽をやりません。だから室内楽に呼ばれてもわからないことがあったりするんですが、聞いちゃいけないというか、なかなか聞けなかったんです。古部さんとご一緒するようになって、その辺りの疑問に答えをもらえたり、新しい発見があったり、色々勉強させてもらってます。

このデュオのコンセプトを教えてください。

古部　このデュオの始まりがホールプロデューサーの画策みたいなものだったので、コンセプトがしっかりあったわけではありません。当初は演奏できそうな曲の楽譜を片っ端から探したり、作曲家に新曲を委嘱したり、このデュオでできる曲を積極的に模索しました。

鈴木　初めの頃は古部さんがおっしゃるとおり割とがむしゃらだったんですが、何度もコンサートを重ねるうちに見えてきたコンセプトがあります。それは、「新しくて耳馴染みのある音楽を楽しんで欲しい」という想いです。知らない曲をかしこまって聞いていただくより、「あっ、これ知っているけどなんか違う」みたいな事を感じてもらえたらと思っています。私たちは、ジャンルの隔たりなく、クラシック、映画音楽、そしてポピュラー音楽まで様々な音楽を演奏しますが、単に耳馴染みの良いものだけを演奏しているのではなく、このデュオならではの音楽を追及しています。是非、そこを楽しんでほしいですね。

最後にザ・フェニックスホールのお客様に向けて一言。

古部　私は大阪にしょっちゅう来ていますが、ザ・フェニックスホールで演奏するのは久しぶりです。オーケストラとは違う室内楽の響きと、オーボエとギターという珍しい組み合わせでの可能性を楽しんで頂けたらと思っています。

鈴木　私は事務所に入って初めてのリサイタルがザ・フェニックスホールなんですよ。だからザ・フェニックスホールに呼ばれると身が引き締まるというか、原点回帰するような気持ちになります。

お客さんから、「オーボエとギターって合うんですね」と言われるのは50点だと思っています。それはまだ過程というか。私たちとしては、クラシック音楽ともポピュラー音楽とも違う、この二人ならではの音楽世界を楽しんでもらえたら嬉しいです。是非、ザ・フェニックスホールでお会いしましょう。

※1 津田ホール　東京の千駄ヶ谷に存在した音楽ホール。現在は閉館。
※2 出光音楽賞　将来有望な若手音楽家に贈られる賞。
※3 ナポレオン・コスト（1805-1883）　フランスのギタリスト・作曲家。

「古部賢一（オーボエ）＆鈴木大介（ギター）デュオコンサート」は、2018年7月13日（金）午後2時開演。茶菓付で、入場料3,500円(指定席)、友の会3,150円。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時～17時)。
[プログラム]ヴィヴァルディ：ソナタ ハ長調 RV48、フォーレ：シシリエンヌ 作品78、ラヴェル：ハバネラ形式による小品、ピアソラ：カフェ1930、ジョビン：イパネマの娘、モリコーネ：ニュー・シネマ・パラダイス ほか

5月25日(金)
10:00 受付開始
ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

5月28日(月)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約

5月29日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店による
お申込みは**5月30日(水)10:00**から!

★5月1日(火)よりホールチケットセンターはビル8階へ移転しました。

■サンデー・クラシック・サロン2

2018年10月28日(日)

15:00開演　指定席
一般¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生¥1,000(限定数)

出演　【第1部】田原綾子(ヴィオラ)
石上真由子(ヴァイオリン)
笹沼 樹(チェロ)
【第2部】長富 彩(ピアノ)

楽聖の楽壇デビュー当時に思いを馳せてみる

サンデー・クラシック・サロン
～若きベートーヴェンの肖像～

曲目　ベートーヴェン:弦楽三重奏のためのセレナーデ ニ長調 作品8
ピアノソナタ 第3番 ハ長調 作品2-3
ピアノソナタ 第8番 ハ短調「悲愴」作品13　(予定)

室内楽の新しい楽しみ方を提案するザ・フェニックスホールの独自企画"サンデー・クラシック・サロン"。今回は"若きベートーヴェン"にスポットを当ててお届けいたします。ベートーヴェンは20代半ばでデビューし、本格的なキャリアをスタートさせました。30代に入って難聴がひどくなり、自殺を考える程に落ち込みますが、それを精神的に克服しながら次々と名曲を産み出していきます。このコンサートでは、デビュー間もない頃から難聴がひどくなる直前の時期の作品を取り上げ、それをこの時期のベートーヴェンと同年代の演奏家たちが演奏します。演奏前にはインタビューを行い、ベートーヴェンについて、また今回演奏する曲の解釈についてお話ししていただく予定です。古典様式に則りながらも独自の道を模索し、溌剌と意気揚々としていたベートーヴェンの意欲にあふれた作品を同年代の演奏家がどのように考え、どのようにアプローチするのかをお楽しみください。

田原綾子(たはら・あやこ/ヴィオラ)
第11回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞、第9回ルーマニア国際音楽コンクール全部門グランプリを受賞。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を卒業。読売日響、東京交響楽団、東京フィルなどと共演。JTが育てるアンサンブルシリーズ、宮崎国際音楽祭、武生国際音楽祭、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK BSプレミアム「クラシック倶楽部」、NHK FM「リサイタル・ノヴァ」、CHANEL Pygmalion Daysなどに出演、室内楽奏者としても著名なアーティストと多数共演している。宗次エンジェル基金奨学生、ローム音楽財団奨学生。これまでに橋本都恵、井上淑子、藤原浜雄、鈴木康浩、岡田伸夫の各氏に師事。現在はパリ・エコールノルマル音楽院で、ブルーノ・パスキエ氏から指導を受けている。エール弦楽四重奏団、ラ・ルーチェ弦楽八重奏団メンバー。

石上真由子(いしがみ・まゆこ/ヴァイオリン)
5歳からヴァイオリンを始め、8歳の時にローマ国際音楽祭に招待される。日本音楽コンクールやルーマニア国際音楽コンクール、チェコ音楽コンクール、宗次エンジェルヴァイオリンコンクール、バルトークコンクールなど数々のコンクールで受賞。NHK FM「名曲リサイタル」や「リサイタル・ノヴァ」に出演。国内外で多数のオーケストラと共演している。ヨーロッパ各地でも演奏会に出演。ソロ活動と共に長岡京室内アンサンブルやアンサンブル九条山のメンバーとしても活躍している。森悠子氏らに師事。

©Kei Uesugi

笹沼 樹(ささぬま・たつき/チェロ)
ARDミュンヘン国際コンクール弦楽四重奏部門第3位。ソロでは東京音楽コンクール第2位、日本音楽コンクール入選。室内楽奏者としても横浜国際、ルーマニア国際、ザルツブルク=モーツァルト国際などのコンクールで優勝。桐朋女子高等学校音楽科を首席卒業後、桐朋学園大学ソリストディプロマコース修了、並びに学習院大学文学部卒業。現在、桐朋学園大学大学院に在籍中。2017年6月に開催したリサイタルは天皇皇后両陛下をお迎えしての天覧公演となった。ヴァーツラフ・アダミーラ、古川展生、堤剛の各氏に師事。カルテット・アマービレ、ラ・ルーチェ弦楽八重奏団のメンバー。

長富 彩(ながとみ・あや/ピアノ)
東京音楽大学付属高校を特待生で卒業、ハンガリー国立音楽院に学んだ後、米国イリノイ州で開催したリサイタルが大きな反響を呼び、米国での演奏活動を開始。これまでに日本コロムビア(株)より3枚のアルバムをリリース。「レゾナンス～ホロヴィッツ・トリビュート」(日本コロムビア)、2016年12月にリリースしたオール・ベートーヴェンの作品集「Aya Nagatomi plays Beethoven」(テレビマンユニオン)がそれぞれ『レコード芸術』誌において特選盤に選出された。最新盤は小品集「Scenes -12の情景-」。現在、日本各地でのリサイタルに加えオーケストラとの協演、室内楽などの分野において精力的に活動。http://www.ayanagatomi.com/

■フェニックス・エヴォリューションシリーズ86　　主催　Sun Bones Trombone Trio

2018年11月14日(水)

19:00開演　自由席
一般前売¥2,500(友の会価格¥2,250)
一般当日¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生前売¥1,000　　学生当日¥1,500
※友の会割引は無制限。
※学生券は大学生以下対象。

Sun Bones Trombone Trio×ピアニスト金田仁美「三声の可能性」

出演　武内紗和子、岡村哲朗、石井徹哉(以上トロンボーン)、金田仁美(ピアノ)
曲目　スティーヴン・フェルヘルスト：ファイア ホース　石戸谷 斉：ミュージック フォー サンボーンズ
ディヴィッド・ポッパー：レクイエム　デレク・ブルジョワ：3本のトロンボーンのためのコンチェルト
エリック・エワイゼン：トリプルコンチェルト

トロンボーンと聞いて何を思い浮かべますか?スライドと呼ばれる長い管を伸縮させながら演奏する姿、金色でピカピカしている、高校野球の応援で吹いているのを見たことがある..様々な姿が浮かんでくると思います。そんなトロンボーンという楽器の魅力をお伝えしたく、"さんぼんトリオ"の愛称と共に2013年より活動を続けるSun Bones Trombone Trioによる、コンチェルト作品を中心としたコンサートです。トリオのための作品が演奏される機会は少ないのですが、三声のみで構成される響きはシンプルでありながらも楽器の持つ豊かな倍音により広がりをみせるという特徴を持っています。この演奏会ではトロンボーントリオの最新作であるスティーヴン・フェルヘルスト「Fire Horse」(2014)と、委嘱作品である石戸谷斉「Music for Sun Bones」(2016)を演奏し、15世紀に誕生してからほとんどその姿と構造を変えずに今日まで活躍してきたこの楽器の様々な演奏技法や音色をお伝えし、またピアニスト金田仁美と共に実演される機会の極めて少ないトロンボーントリオが主役のコンチェルト作品をお送りします。同一楽器でありながら個性の違う三声の音色の融合を、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールの豊かな響きと共にお楽しみください。

Sun Bones Trombone Trio(サン・ボーンズ・トロンボーン・トリオ／トロンボーン三重奏団)　武内紗和子、岡村哲朗、石井徹哉により2013年結成。オリジナルアレンジ「魔笛組曲」「ドラゴンクエスト組曲」「くるみ割り人形組曲」などをレパートリーに持ち、演奏される機会の少ないトロンボーン三重奏を広めるべく大阪を中心に意欲的に活動中。

武内紗和子(たけうち・さわこ／テナートロンボーン)　京都市出身。京都市立京都芸術大学大学院修了。第9回日本トロンボーンコンペティション第1位、第14回日本クラシック音楽コンクール金管部門第2位、第1回関西トロンボーン協会ワークショップ・コンクール第2位。第23回ヤマハ新人演奏会に出演。小澤征爾オペラプロジェクトIX、X、サイトウキネンフェスティバル松本 若い人のための室内楽勉強会に参加。これまでに呉信一、井谷昭彦の各氏に師事。現在、フリーランスとして活動中。

岡村哲朗(おかむら・てつろう／テナートロンボーン)　大阪音楽大学を卒業。同大学卒業演奏会、第26回ヤマハ新人演奏会(東京・大阪)、第80回読売新人演奏会に出演。トロンボーンを呉信一、岡本哲、デニス・ウィック、サイモン・カーウェンの各氏に師事。第4回関西トロンボーン協会コンクールにおいて2位(1位なし)、第12回松方ホール音楽賞奨励賞、第14回松方ホール音楽賞を受賞。英国でDFDSシーウェイズ主催ヨーロッパ国際ブラスバンドコンテストベストソリスト賞、SCABAブラスバンドコンテストベストプレイヤー賞を受賞。ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団トロンボーン奏者。大阪コンサートブラスメンバー。

石井徹哉(いしい・てつや／バストロンボーン)　千葉県出身。武蔵野音楽大学器楽学科を卒業。これまでに、前田 保、井上順平の各氏に師事。徳島文理大学非常勤講師。現在、Osaka Shion Wind Orchestraバストロンボーン奏者。

金田仁美(かなた・ひとみ／ピアノ)　第2回ガブリエル・フォーレ国際ピアノコンクールで審査員満場一致の第1位。第12回イル・ド・フランス国際ピアノコンクール第3位。第19回吹田音楽コンクールピアノ部門第1位。第8回かやぶき音楽堂デュオコンクール4手連弾部門で第1位。関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、テレマン室内管弦楽団と共演。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了、パリ・エコールノルマル音楽院ピアノ高等ディプロムを取得。アインザッツレコードよりデビューCD「金田仁美ビゼーピアノ作品集」発売中。

ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約
- ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- 主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- 友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
- E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- 事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。

■一般発売
- 一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

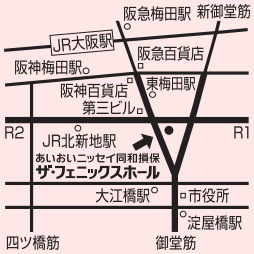
http://phoenixhall.jp/

チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約 (主催公演のみ)
- ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
- ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- 学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店によるお申込み

- ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法

下記①または②のどちらかとなります。

①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00です。
②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座　00940-0-95351　　加入者名　ザ・フェニックスホール

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。
当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演

藤原道山×SINSKE プレミアム・ランチタイムコンサート

主催　藤原道山×SINSKE「花」大阪公演事務局

発売中

2018年6月22日(金)　14:00開演　指定席　一般前売¥3,500(友の会価格¥3,150)　一般当日¥4,000(友の会価格¥3,600)
プレミアム席¥4,500(友の会価格¥4,050)　※プレミアム席は前売のみ、あらかじめ指定された座席限定　※友の会割引は1会員4枚まで。

出演　藤原道山(尺八)、SINSKE(マリンバ)
曲目　藤原道山×SINSKE:風の響宴　中田喜直:夏の思い出　武満 徹:小さな空　H・マンシーニ:ひまわり 愛のテーマ
ガーシュウィン:サマータイム　ヴィラ=ロボス:Bachianas Brasileiras No.5　ほか

「尺八とマリンバだけで、オーケストラのような多彩な響きを生み出せるはず」二人のそんな思いからスタートしたコンサートが、毎年完売となり7年目を迎え、大阪で初となるランチタイムのコンサートが決定いたしました。これまでに演奏してきたクラシックやポップス、映画音楽の名曲に二人のオリジナル作品を加え「昼に聴きたい名曲」を選りすぐりギュギュッと凝縮してお届けします。リピーターの方も初めての方も必聴の「昼のベスト盤」的コンサートです。
※プレミアム席(記念撮影付)について　「プレミアム・ランチタイムコンサート」開催を記念して、藤原道山、SINSKEと一緒に記念撮影ができるプレミアム席をご用意いたしましたので、ぜひご利用ください。販売は前売のみ。あらかじめ指定された座席限定となります。

協賛公演

Quartet Explloce (クァルテット・エクスプローチェ) ～饗炎する4本のチェロ～ Tour 2018

発売中

2018年8月9日(木)　19:00開演　指定席
一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700)　一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150)　学生前売¥1,500　学生当日¥2,000

主催　フィリー企画

出演　辻本 玲、市 寛也、森山涼介、髙木慶太(以上チェロ)
曲目　J・S・バッハ:シャコンヌ　ブラームス:6つの小品より インテルメッツォ 作品118-2
ショパン:ワルツ 第7番 嬰ハ短調 作品64-2　J・ヨンゲン:4本のチェロのための2つの小品
A・ロジェーロ:ミミ・ピンソン　ピアソラ:ブエノスアイレスの四季

一年の充電期間を終え、クァルテット・エクスプローチェが再始動です！今回はピアソラの『ブエノスアイレスの四季』をメインにチェロカルテットならではの重厚な響きをお届けします！
前半はバッハのシャコンヌ、ブラームス、ショパンのピアノ名曲、そしてチェロカルテットのために書かれたヨンゲン作曲の『二つの小品』、余すところなくチェロの魅力を聴いていただきたいと思います！会場で皆様をお待ちしております！

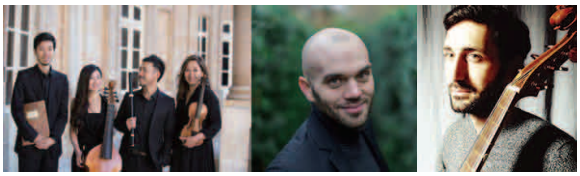
協賛公演

ジャン=フィリップ・ラモー

主催　アンサンブル・レ・フィギュール事務局

発売中

2018年8月28日(火)　19:00開演　自由席　一般前売¥3,500(友の会価格¥3,150)
一般当日¥4,000(友の会価格¥3,600)　学生前売・当日¥2,000　※友の会割引は1会員2枚まで。



出演　アンサンブル・レ・フィギュール／石橋輝樹(フラウト・トラヴェルソ)、
榎田摩耶(バロック・ヴァイオリン)、原 澄子(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、會田賢寿(チェンバロ)
ゲスト／ブノワ・ラモー(テノール)、ブノワ・ベラット(ヴィオローネ)
曲目　ラモー:カンタータ「オルフェ」　ほか

パリ在住の古楽演奏家により結成されたアンサンブル・レ・フィギュールはヨーロッパの歴史、芸術や文化への造詣を深め、当時の文献に基づいた奏法と音づくりを追求する器楽アンサンブルである。日本での演奏会にはメンバーがフランスで出逢った才能溢れる歌手を招き、色彩豊かなフランスバロック音楽の更なる普及を願い、カンタータを軸に独創的なプログラムを創り上げている。その活動が実り、2016年にフェニックス・エヴォリューション・シリーズに選出され、また2018年度京都バロックザールで(公財)青山音楽財団よりバロックザール賞を受賞する。今回はゲストアーティストのブノワ・ラモー、ブノワ・ベラットと共にフランス後期バロックの物語をお届けする。www.ensemblelesfigures.com

協賛公演

パノハ弦楽四重奏団

主催　コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2018年8月31日(金)　19:00開演　指定席　一般前売・当日¥4,500(友の会価格¥4,050)　※友の会割引は前売のみ

出演　パノハ弦楽四重奏団／
イルジー・パノハ、パヴェル・ゼイファルト(以上ヴァイオリン)、
ミロスラフ・セフノウトカ(ヴィオラ)、ヤロスラフ・クールハン(チェロ)
曲目　ハイドン:弦楽四重奏曲 第39番 ハ長調「鳥」作品33-3
ヤナーチェク:弦楽四重奏曲 第2番「内緒の手紙」(1928) “没後90年記念”
スメタナ:弦楽四重奏曲 第1番 ホ短調「わが生涯より」

～関西圏の最大拠点　梅田で展開する藝術音楽～　弦の国チェコが誇る国宝級弦楽四重奏団“梅田”に現る。今夏、草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル以外での国内唯一の公演。

協力公演

夏祭なにわなくとも室内楽Vol.10「天才たちの名曲選」

主催　大阪アーティスト協会　構成・監修:網干 毅

発売中

2018年7月21日(土)、22日(日) 17:00開演　自由席　一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600)　一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050)　2夜セット券¥7,000

出演　野津臣貴博、安藤史子(以上フルート)、ギオルギ・バブアゼ、日比浩一(以上ヴァイオリン)、大町 剛(チェロ)、椋木裕子、髙橋小牧(以上ピアノ)　ほか
曲目　ドビュッシー:ピアノ三重奏曲 ト長調　ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第5番 ヘ長調「春」　ほか

協力公演

サマーミュージックフェスティバル大阪 2018 in ザ・フェニックスホール《目で観て耳で聴く～名曲を絵画・夜景とともに》

主催　サマーミュージックフェスティバル大阪実行委員会
構成・監修:小味渕彦之

5/25(金)発売

2018年8月4日(土)、5日(日) 17:00開演　自由席　一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600)　一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050)　小中高生¥1,000
2夜セット券¥7,000

出演　田野倉雅秋、菊本恭子(以上ヴァイオリン)、近藤浩志(チェロ)、池田洋子、中川美穂(以上ピアノ)、増井一友(ギター)、エンキ(中国琵琶)　ほか
曲目　ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第4番 変ロ長調「街の歌」作品11　ムソルグスキー:組曲「展覧会の絵」　ほか　※出演者・曲目の詳細は同封のチラシをご覧ください。

レクチャーコンサート
ピアノはいつピアノになったか？補遺2
「クララ・シューマンとピアノ」に寄せて

ヴィーンのクララ・ヴィーク

玉川裕子

1838年冬のヴィーン。「大勝利！ 敵を圧倒」。日記に誇らしげに勝利宣言を書きつけたのは、フリードリヒ・ヴィークである。彼の娘は、その卓越したピアノ演奏を通じて、耳の肥えたヴィーンの人びとの心を魅了した。

クララ・ヴィーク。この弱冠18歳の若き女性音楽家は、1819年9月13日にライプツィヒに生まれた。父は、娘が5歳になる直前にピアノのレッスンを開始、職業ピアニストに仕立てあげるべく、考え抜いた幅広い音楽教育を授けた。11歳の時に地元のゲヴァントハウスで本格デビュー、以後父娘二人三脚で精力的に各地を演奏旅行して回り、クララの名声は次第に高まっていった。

1837年11月、二人はいよいよ音楽の都ヴィーンに乗り込む。この時ヴィーンの人びとの話題をさらっていたのは、F・リストの好敵手とみなされていたピアノのヴィルトゥオーソで、この頃同地に居を構えていたG・タールベルクである。クララを迎えたヴィーンの人びとは、当初より二人の腕比べに興味津々だった。翌年4月までの5ヶ月間にわたるヴィーン滞在 中にクララが開催した計6回の公開演奏会は、回を追うごとに聴衆の熱狂が高まり、会場に入りきれないほどの人が押し寄せ、偽造チケットも出回った。ヴィーンの詩人F・グリルパルツァーは、クララの演奏したベートーヴェンの≪熱情≫ソナタに触発され、「クララ・ヴィークとベートーヴェン」という一編の詩を物した。クララのファンはまた、「ヴィーク風トルテ」と名付けられたお菓子に舌鼓を打った。勝敗は明らかだった。

6回の公開演奏会とは別にクララはまた、慈善演奏会、さらには貴族や音楽愛好家の市民の私邸にも招かれて演奏している。後者のような少数の真の音楽通の集う場で、クララは公開演奏会では避けていた、当時まだ無名の、しかし彼女にとっては大切な作曲家ローベルト・シューマンの作品を披露した。宮廷にも招かれて演奏し、ついにはハプスブルク家の「帝室宮廷音楽家」の称号を授与される。クララ以前にこの称号を与えられたのは、N・パガニーニやタールベルクなど、ごくわずかである。それを、18歳で、女性で、しかもプロテスタントのクララが授けられることになったのである。このヴィーン演奏旅行は、神童からみごと大人の音楽家に脱皮したクララ・ヴィークのキャリアの頂点であった。

これほどまでに自分を暖かく迎えてくれたヴィーンの人びとに感謝の気持ちをこめて作曲し、故郷への帰途グラーツで初演したのが≪ヴィーンの思い出≫ 作品9である。変奏曲形式の同曲の主題は、作曲動機に照らし合わせるとこれしかないと思われる選曲である。さて、何でしょう？ 当日演奏されるので、お楽しみに！

もうひとつクエスチョン。ヴィーンにクララ旋風を巻き起こした才能溢れるこの女性音楽家は、1年半後に結婚する。クララ・シューマンとなった彼女の音楽家としてのキャリアは、その後どうなったでしょうか？

『ピアノはいつピアノになったか？補遺2「クララ・シューマンとピアノ」』は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドヴァイザーの伊東信宏 企画・構成。講師は玉川裕子。ピアノは宮﨑貴子。2018年7月29日(日)午後3時開演。入場料3,000円(指定席)、友の会2,700円。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時～17時)。

玉川裕子（たまがわ・ゆうこ/講師：桐朋学園大学准教授）　近代ドイツおよび日本の音楽文化史（とくに女性の音楽活動史）が専門。主な編著書：『クラシック音楽と女性たち』（青弓社、2015年、編集およびファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼル、クララ・ヴィーク＝シューマンについての章執筆）、主な著作：「ピアノのある部屋」（『ドイツ文化史への招待―芸術と社会のあいだ』大阪大学出版会、2007）、「女性の音楽実践とジェンダー」（『ドイツ近現代史入門』青木書店、2009）ほか、主な訳書：F・ホフマン『楽器と身体―市民社会における女性の音楽活動』（春秋社、2004）、モニカ・シュテークマン『クララ・シューマン』（春秋社、2014）など。

ザ・フェニックスホール友の会会員様限定
～2018年度ティータイムコンサート通し券特典 当選者発表！～

2018年2月28日までに、2018年度ティータイムコンサートの通し券をお求め頂いた会員様の中から抽選で5組10名様に、本年度主催公演（ホール指定）のご招待状をプレゼントする限定特典の当選者は以下の方々です。
6月1日にはティータイムコンサートシリーズ第1公演目、「プラジャーク・クヮルテット with 山碕智子（ヴィオラ）～オール・ドヴォルザーク・プログラム～」を開催いたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■プレゼント当選者■　豊能郡／大植様　大阪市／奥平様　摂津市／川瀬様　豊中市／北田様　豊中市／牧瀬様

初めてのピアノソロリサイタル　— 小川理子

Keizo Matsui

1998年のこと。まさか、会社に入ってから、仕事をしながらピアノを本格的に弾くとは思ってもいなかった私が、所属組織が解散したことをきっかけに1993年にジャズの演奏活動をスタートして5年目。この節目に自らのプランニングで何かを残したいと思った。ステージ後方が全面ガラス張りで、夜になると大阪都心の高層ビルのネオンが、まるでニューヨークにいるかのような素晴らしい気分にしてくれるザ・フェニックスホールに一目惚れし、初めてのソロリサイタル開催を決めた。

ガーシュウィン生誕100年を記念し、プログラムは、ガーシュウィンの作品と彼自身が影響を受けたハーレムストライドピアニストの作品ばかりで構成した。中でも、ガーシュウィンが確立したシンフォニックジャズの定番「ラプソディインブルー」のソロに加えて、フォークオペラ「ポーギーとベス」も全曲ソロで弾くという、非常に意欲的なプログラムにした。ポーギーとベスは、CDを繰り返し繰り返し聞きながら、オーケストレーションを自分流のソロスタイルで表現してみようと、全曲自筆の楽譜に仕上げた。時間がかかって大変ではあったが、面白くて挑戦した甲斐はあった。プログラムのうち、何曲かは、5年間一緒に演奏を続けてきた当時音響研究所の上司でもあったドラムの木村陽一さんと、当時博報堂のベース石田信男さんとのトリオ、またゲストボーカルには、北新地のジャズライブの老舗「ニューサントリー5」のお嬢さんである森朋子さんにも友情出演いただいた。本番に向けて、とにかくホールを満席にしよう、との心意気で、配布するリーフレットもチケットも全て自分でデザインし制作し、様々なルートで配布した。リーフレットに使う写真は、会社の後輩に頼んで、研究所内にある音響スタジオのピアノの前で撮影してもらった。

ソロを始めてまだ5年ではあったが、こういう大きな目標をたてて挑戦してみると、飛躍的に実力がついたようにも思えたし、勉強をしていく過程で様々な発見ができるのも、大いなる喜びであった。その発見とは、時には作曲家のメッセージであったり、時には演奏表現の可能性であったり、時には自分自身の情熱と目的であったりもした。練習を積んで当日に臨んだが、ステージにあがる直前の緊張感は言うまでもない。

一人で弾きだしたピアノの音が、ホールいっぱいに広がって、また自分の元へと返ってくる。そのフィードバックを繰り返しながら、私の体内のリズムが音楽のリズムと共鳴し、どんどんドライブする。ハーレムストライドスタイルとは、このようなドライブ感を最もプリミティブに表現するスタイルだと思う。カッカッカッと、靴のヒールがリズムをとってステージを踏み鳴らす音は意外にも大きく感じた。

リサイタル当日の客席は、目標どおり満員御礼の状態となった。最後の曲は、私を小さい頃からジャズやクラシックの世界で楽しませてくれた父の喜寿のお祝いに作曲した、「父に捧げるブルース」を演奏した。この曲は、2006年にビクターエンタテインメントからリリースしていただいたCD「Swingin' Stride」の最後の曲としても収録し、私にとって大変思い出深い曲となっている。

これまで、世界の多くの一流プロから言われた「Keep Play! Don't stop Play!」の精神を、仕事と演奏の両立を目指して今も守っている。そして、ライフワークとしての音楽演奏では、これからも様々な形で挑戦を続けていきたいと思っている。

小川理子(おがわ・みちこ)／パナソニック(株)執行役員、テクニクスブランド事業担当、アプライアンス社 技術担当、ジャズピアニスト
大阪市生まれ。慶應義塾大学理工学部卒業後、パナソニック入社。音響機器の研究開発、ネットワークサービス事業、ブランドコミュニケーション部門を経て、2014年に同社高級オーディオ機器テクニクスブランド復活を総指揮。現在、同社執行役員。3歳からクラシックピアノを始め、相愛学園「子供の音楽教室」で音楽基礎教育を学ぶ。2000年から米国の国際ジャズフェスティバルに招聘され、2003年全米リリースCDは英国ジャズジャーナル誌の批評家投票で第1位を獲得。2017年には文藝春秋社より、音にかける半生を綴った「音の記憶」を上梓。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。
〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F　TEL 06-6363-0211
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月　2018年5月
発　　行　あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編　　集　諸藤 修一
デザイン　松井桂三有限会社